

論文番号 252

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名 (原題/訳)

Plasma homocysteine is a predictor of alcohol withdrawal seizures.

血漿ホモシステインレベルはアルコール離脱痙攣の予測因子となる

執筆者

Bleich S, Degner D, Bandelow B, von Ahsen N, Ruther E, Kornhuber J

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Neuroreport 11(12): 2749-2752 (2000)

キーワード

慢性アルコール依存症、ホモシステイン、NMDA 受容体、離脱痙攣

要旨

長期のエタノール摂取に対する適応の結果として脳の特定の部位でNMDA受容体の補償的な増加が生じる。ホモシステインとその分解産物(例えばホモシスチン酸)が神経伝達物質と考えられ、さらにNMDA受容体の作動薬であることから、本研究の目的はホモシステインレベルの変化がアルコール離脱痙攣にどのような影響を与えるか検討することである。離脱痙攣を発症している6人の慢性アルコール依存症患者の入院時のホモシステインレベル($84.7 \pm 29.8 \mu\text{mol/l}$)は、痙攣を発症していない患者(26人)($30.2 \pm 23.2 \mu\text{mol/l}$)と比べて(統計的に)有意に高いレベルを示した。さらに、痙攣発症患者の葉酸レベルは有意に低く、一方、血中アルコール濃度は高いレベルにあった。ロジット回帰分析によって、離脱痙攣の予測確率は入院時の高ホモシステインレベルと最もよく適合した($P < 0.01$; オッズ比=1.05)。このように、患者入院時のホモシステインレベルの測定はアルコール離脱痙攣を発症する危険性のある患者を同定するのに有効なスクリーニング法と考えられる。